

## 『闇から光の中へ』 ヨハネの福音書 8章1～11節 2017.10.15(聖日礼拝説教より)

『お互いに親切にし、心の優しい人となり、神がキリストにおいてあなたがたを赦してくださったように、互いに赦し合いなさい。』  
エペソ 4:32

イエス様と出会った人々は、出会う前と後で、何が、どう変えられただろうか。

❶ 罪の中の住人たち(1～6節)…律法学者とパリサイ人は、姦淫の現場で女を捕まえて来て、「律法では石打ちによる処刑だが、あなたはどうする？」とイエスに問うた！ イエスを妬み、訴える口実を見つけたいだけだった！ 彼らは聖書に学びながら、神の思いから遠かった。彼らにとって、この女性の人生など、どうでもよかった。私たちも、神の愛を知っていても、人を嫌って裁いてしまう。身勝手と悪意に満ちているこの世と、あなたは、どう向き合う？

❷ 自分の罪を自覚する(7～9節)…イエスは、騒がしく訴える彼らを相手にせず、その悪意に背を向けた。すぐ『キレル』人が多い世の中…思うようにならず、不機嫌で、苛立ちが抑えられない人々。彼らにイエスは『罪のない者が、石を投げよ！』一度も罪を犯したことがない人などいない！ 裁きたくなる時は、まず自分の罪に気づくこと！ しかし罪に気づくだけでは何も解決しない…人々はイエスの前から立ち去った！ 神から離れてしまえば、人生は改まらず、自分が一番正しいかのように生きてしまう。そして、その罪の道連れとなり永遠の闇へ！ だからイエスの救いが必要(エペソ2:5～)。この女性のように、処刑されるばかりだった私たちが、イエスの身代わりの処刑(十字架)を信じた時、裁きから自由になれる！ 本当の悔い改めとは、神の赦しの許に帰ること！

❸ 赦され続けて生きる(10～11節)…『婦人よ、あなたを罪に定める者はなかったのか？』と問われた時、彼女は答えた『誰もいません、主よ！』心も体も人生もボロボロの中で、彼女は信頼できる方(赦し)を知った。いつの日か、私たちも彼女と同じ状況になる日が来る(ヘブル 9:27)！ 世を裁くお方の御前で、イエスを信じた人は、あの言葉を聞く！ 『わたしは、あなたを罪に定めない。子よ安かれ。あなたの罪は赦された』。赦しの恵みを知る私たちは、あの言葉を常に聞く！ 『あなたの罪の代わりにわたしは処刑された！ 信じる者は赦され続ける！ だから、あなたは罪と闘い、罪を少しでも減らせ』と。

★神にも人にも喜ばれる生涯を願い求めて生きよ！ 赦された者らしく！ 神に愛されている子どもらしく！ 光の子として平和を輝かせよ！ と。『わたしは、世の光です。わたしに従う者は、決してやみの中を歩むことがなく、いのちの光を持つ(8:12)』。